

民生委員・児童委員のための情報誌

Well ウエル



19
2008.7

おおさか

特集

大阪府民生委員(方面委員)制度創設90周年記念
第60回 大阪府民生委員児童委員大会
民生委員・児童委員活動と関係機関との協働を考える





特集

大阪府民生委員(方面委員)制度創設90周年記念 第60回 大阪府民生委員児童委員大会

5月13日、大阪府と大阪府民生委員児童委員協議会連合会、大阪府社会福祉協議会が主催し、大阪府立体育館にて、大阪府民生委員(方面委員)制度創設90周年記念・第60回大阪府民生委員児童委員大会が開催されました。今年は民生委員制度の源流である方面委員制度の創設90周年にあたる記念すべき大会で、大阪府内の民生委員・児童委員約4,300名をはじめ、4,500名以上が参加しました。



全国民生委員児童委員連合会
天野 隆玄会長
(あいさつ順)



大阪府社会福祉協議会
梶本 徳彦会長



大阪府民生委員
児童委員協議会連合会
梅原 勝美会長代行



大阪府
橋下 徹知事

「人と人 ふれ合う心に 地域の輪」行動宣言

大阪府民生委員(方面委員)制度創設90周年記念大会 大会宣言

- 1.一人ひとりの置かれている状況や思いを真摯に受け止め、住民の立場に立った「寄り添う」個別援助活動を推進します。
- 1.複雑で困難な生活課題を抱え、支援を必要とする人を発見し、支援につなげるとともに、孤立・孤独をなくし、地域住民とのつながりづくりに取り組みます。
- 1.子育て中の家庭を支えるとともに、子どもを児童虐待や犯罪被害から守り、子どもが健やかに成長できるよう取り組みます。
- 1.要援護者が災害時に孤立することがないよう、災害時を想定した安否確認体制を構築する取り組みを進めます。
- 1.地域住民や関係機関にとってより親しみやすく、「顔の見える」関係を築くとともに、新たな担い手の発掘に向けた積極的な取り組みや、民生委員児童委員協議会、地区委員会における委員どうしの支え合いなどを通じ、活動しやすい環境づくりに努めます。

第一部の記念式典は、全民見連の天野隆玄会長ほか多数の来賓の臨席のもと、盛大に開催されました。

橋下徹大阪府知事はありますの中、「行政の最大の使命である持続可能なセーフティネットの構築に向け、民生委員・児童委員とともに取り組みたい」と述べました。

府民児協連の梅原勝美会長代行は、「住民にとって最も身近な相談者として、地域の中で孤立しがちな人を発見し、支援へつなげる活動を一層推進するとともに、研鑽を重ね、民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりに動みたい」と、今後の活動に向けた決意を表明しました。

また、府社協の梶本徳彦会長は、セーフティネットの構築に向け、民生委員・児童委員、市町村社協、社会福祉施設の三者の協働による取り組みの一層の推進についての重要性を強調しました。

表彰状授与式では、府内で活躍する民生委員・児童委員の功績を称えるとともに、90周年記念事業スローガン「人と人 ふれあう心に 地域の輪」を考案した和泉市の藤原

正治さんに表彰状が手渡されました。

さらに、府民児協連の多賀信正副会長が「民生委員制度の前身である方面委員制度が大阪で創設されて90年を迎え、制度創設時の精神に今一度立ち返るとともに、住民の側に立った地域福祉推進の担い手としての取り組みを進めます」と読み上げた大会宣言は拍手により採択され、委員全員が今後の活動の方向性を確認し合いました。

第一部閉幕後、交野市民児協による民生委員の歌「花咲く郷土」の齊唱が披露され、委員全員が一致団結して歌舞と素晴らしい歌声に対して、会場中が惜しみない拍手を送りました。

民生委員の父 林市蔵・第16代大阪府知事と方面委員制度の時代 展示コーナー

1階ロビーでは、民生委員の父・林市蔵第16代大阪府知事にまつわる貴重な資料の展示コーナーを設け、多数の人々が訪れました。

資料提供:林市蔵・第16代大阪府知事のご遺族、大阪府公文書館
展示協力:京都光華女子大学 小笠原慶彰教授



アトラクション



交野市
民生委員児童委員
協議会
堂野 喜美子 会長

制度創設90周年記念・第60回大阪府大会という節目の大会に、交野市民生委員児童委員協議会の委員全員が、民生委員の歌「花咲く郷土」を、舞台で齊唱する機会を与えていただきましたことに、感謝申しあげます。2か月余りの短期間ではありましたが、この日をめざして練習を重ねるにしたがい、委員一人ひとりの力が結集し、大きな心の輪となりました。

交野市民児協全員が一致団結し、歌詞に込められた民生委員の姿への思いに心をこめ、明るく元気に歌うことができました。

この感動、余韻は消えることなく、民児協活動、地域福祉への日々の活動の糧となることと思います。関係各位のご支援、ご協力に厚く御礼申しあげます。



香淳皇后
御歌朗詠

箕面市民生委員児童委員協議会
平井 米子 副会長

思いもかけず、香淳皇后の御歌を朗詠することになり、戸惑いもありましたが、心を込めての一念で本番に臨みました。緊張と不安の中、無我夢中で吟じたように思います。私は平成元年12月に委嘱を受け、同じ年に詩吟を始めました。図らずも、この記念大会でこのような巡りあわせに恵まれ、感謝の気持ちでいっぱいです。

参加者の声!



昨年12月に委嘱を受け、今回が初めての参加になります。これから頑張っていきたいです。

吹田市 女性



高齢者や幼い子どもを重視した取り組みが必要だと感じています。私たち民生委員や大阪府がともに考えていかなければと思います。

岸和田市 男性

90周年にふさわしい、素晴らしい大会でした。講演は民生委員・児童委員に身近なお話をされていて、今後の活動に役立つヒントがあったと思います。

泉大津市 男性

■表彰状・感謝状授与者

厚生労働大臣特別表彰 257名

大阪府知事表彰

永年勤続民生委員会長・副会長表彰(10年勤続) 2名

永年勤続民生委員表彰(20年勤続) 26名

優良民生委員表彰(10年勤続) 80名

永年勤続主任児童委員表彰(20年勤続) 1名

優良主任児童委員表彰(10年勤続) 6名

社会福祉事務職員に対する
大阪府民生委員児童委員協議会連合会 64名
会長感謝状



みんなの命輝くために —セーフティネットとしての民生委員・児童委員活動—

講師 大谷 昭宏氏

皆様方のお仕事というのは、だんだん煩雑さを増すばかりではないでしょうか。なぜこの負担が多くなっているのかと考えてみると、残念ながら日本の家族社会が崩壊してしまったということです。世間に冷たい風が吹こうと家族は支え合い、お互いに手を携え、力をあわせて自分たちの生活を守る、最後の砦だつた。けれどもその「最後の砦」が崩れてしまっています。とくに、児童虐待に関する相談件数は10年前のすでに3倍となるなど、家族の姿が変わってきてしまったのです。

本来は温かく支え合うはずである家族がどんどん押し潰されています。そうなると皆様方は児童や高齢者への虐待、夫婦

人と人とのつながりが希薄になっている昨今、支援を要する人々が潜在化する傾向が強まっており、こうした人々を支援へつなぐ民生委員・児童委員への期待がますます高まっています。今回は「みんなの命輝くために—セーフティネットとしての民生委員・児童委員活動—」というテーマで、大谷昭宏氏に記念講演をお願いしました。

関西は1995年1月17日に阪神・淡路大震災を体験しましたが、民生委員・児童委員活動の中で「ここにはお婆ちゃんが一人暮らしでいるはずだ、この息子さんはここに連絡がとれるはずだ」と大変な力を發揮されました。

日本の社会がちょうど戦後50年目を迎えた1995年、あの震災を体験しました。ひょっとすると6434人という尊い犠牲が我々に地域防災の大切さを教えてくれたんじゃないかなと思っています。そういう意味で

人と人とのつながりが希薄になっている昨今、支援を要する人々が潜在化する傾向が強まっており、こうした人々を支援へつなぐ民生委員・児童委員への期待がますます高まっています。今回は「みんなの命輝くために—セーフティネットとしての民生委員・児童委員活動—」というテーマで、大谷昭宏氏に記念講演をお願いしました。

間の不和といったケースをサポートしなければならず、家族の中で解決できるであろうことに対する皆方が介在しなければなりません。家族までもが崩壊してしまった時に、民生委員・児童委員は、社会、地域共同体として最後の支えとなるのです。

また、最近では民生委員・児童委員が地域防災という分野の役割も担われています。お年寄りが増えている中、台風や大地震など災害時の安否の確認など、田畠の皆様方のネットワークというのが非常に重視される時代になってきたいると伺っています。



私は生活保護の問題やさまざまな犯罪も含めて、関西は日本の社会で今後起ころうる試練を真っ先に体験していると捉えており、皆様方のお仕事と我々の仕事がどこかで手を結びあえればと願っています。小さな命もあるいはこれが先消えていく命も、ともに大事な大事な命です。その国が素晴らしい国であるかないかは、命がどれほど大事にされてるか、どれほど重くみられてるか、そのこと以外ではかる基準はないはずだと感じています。

災害や日常の中で私たちが直面するのが、ひとつひとつ命の重さです。皆様方が「これだけ私達の国はひとつひとつの命を大事にしている。だからこそ世界でもっとも素晴らしい国だと言われる社会を目指すんだ」ということを胸にお仕事に取り組んでいただければと思っています。

民生委員・児童委員活動と関係機関との協働を考える

「ここに来ると色々な人と知り合いになれ、楽しいです」と
話すボランティア（ほっとサロンちさとでの風景）



吹田市社会福祉協議会・千一校
区福祉委員会では、会則を改定し、
校区福祉委員会への民生委員・児
童委員の開きのあり方を見直しま
した。改正前、民生委員・児童委員
は自治会等からいじ福祉委員とし
て全員が無効と携わっていました
が、平成18年4月の会則改定によ
り、福祉委員となる民生委員・児童
委員は校区福祉委員から推薦された
3名以内とし、他の民生委員・児童
委員は「福祉支援者」として校区
福祉委員会の活動を側面的に支援
する形に改められました。

千一地区では、子育てサロン・配

食サービス・昼食会・障がい者との
交流のほか、週5日開設している
喫茶ペース「ほっとサロンかわい」
を拠点に、ひきこもりがちの高齢
者を対象としたサロン・パソコン教
室の運営など様々な活動がなされ
ていますが、これらは主に校区福
祉委員会が組織した専門部会を通
じて行われており、民生委員・児童
委員はサロンの参加料ひかず・配食チ
ケットなど、訪問のきっかけとなる活
動を担当。

介護保険事業所から「地域で精
神障がいをもつ人が状態の悪い時
に大声を出しておらず、近所から相
談が寄せられるので様子を見
に行つてほしこ」との相談を受け、
民生委員・児童委員が訪問。本人が
毎回家で一人になると寂しさが高
じて不安定になる」とから「せつ
とサロンねむと」の利用を勧め、何
回か同行したところ、毎回はサロン
で落ち着いて過ごすようになります
した。本人がサロンに来ない口には
スタッフが家に訪問して様子を見守
っています。

同地区では、民生委員・児童委員
や単位自治会から推薦を受けた
36名の歴史住民が校区福祉委員会
の見守りを行っています。平成19
年度で年べつ・54回の見守り
や訪問を行っており、中には近隣住
民からの相談で民生委員が家を訪
問したり、階段から落ちて倒
れていた高齢者を発見し、救急車を
呼んで一番を取り止めたケースも。
また、見守りをする人について支
援記録票を整備し、状況を継続的
に把握するなど、以前よりきめ細
やかな支援が可能になりました。

一方で、見守りについて、吹田市民
会等のグループ援助活動は、福祉
のまわりの「一線として地域住
民の手で行えるよう関わっていき
たい」。民生委員・児童委員はまわり
の活動から何か
びあがつてきた要援
護者の孤立をなくす
ための個別支援を
中心に取り組んでい
ますが、民生委員・児童
委員だけでは限界が
あるので、校区福祉
委員会や地域住民
の協力を得ながら、
ともに取り組んでい
きた」と語ります。

千一地区福祉委員会の活動の様子は
ホームページで見ることができます。

<http://senichi.a-suita.com/>

吹田市・千一地区



36名の歴史住民が校区福祉委員会
の見守りを行っています。平成19
年度で年べつ・54回の見守り
や訪問を行っており、中には近隣住
民からの相談で民生委員が家を訪
問したり、階段から落ちて倒
れていた高齢者を発見し、救急車を
呼んで一番を取り止めたケースも。
また、見守りをする人について支
援記録票を整備し、状況を継続的
に把握するなど、以前よりきめ細
やかな支援が可能になりました。

大阪府民生委員児童委員協議会連合会では、大阪府社会福祉協議会の「地域福祉推進のための協働会議」に参画し、各市町村における民児協、社会福祉協議会、社会福祉施設の三者の協働によるセーフティネット構築に向けた取り組みを進めています。今回は、民生委員・児童委員活動の中で、こうした取り組みを実践している事例を紹介します。

体操にも力が入ります



羽曳野市古市南町では、民生委員が仲立ちをし、地域にあるグループホームと町会が災害時相互支援協定を締結しています。

民生委員・児童委員の小谷さんは、災害時に支援を希望している人や、日々の活動の中で支援が必要を感じている人についての状況や顔写真などの情報をマップに整理し、避難誘導時の協力が得られやすいよう取り組んでいます。

実際の避難支援方法を検討する

中で、民生委員・児童委員だけでは限界があるため、町会に協力を求める」としました。また、市指定の避難所までは距離があり、災害時要援護者を誘導する」とが難しいため、身近な避難場所の確保と避難後の一時的な支援について協力が得られないかと考え、(医)祐賀会・グループホーム「くすのき苑」に相談。グループホームからも協力が得られる」となり、平成19年9月

羽曳野市・古市南町

災害時避難支援協定で進む グループホームと地域との交流



にグループホームと町会とで災害時相互支援協定を締結しました。

協定では、グループホームが一時避難先として協力するだけでなく、町会がグループホームの防災訓練へ参加することや、連絡会を設け、災害時の支援を中心とした情報交換を行ななど、相互の信頼関係を深めていくための活動を行う」とが規定されています。

協定をきっかけに、グループホームの運営推進会議に民生委員・児童委員や町会が参画するようになり、グループホームの会議室が地域活動のために開放され、入居者が地域の花見やサロン等の行事に参加するようになりました。

グループホームでは、「協定を結んでから、以前より地域の人々にグループホームの存在を知つてもらえたようになつた。地域の行事に参加した入居者の新たな側面を見つけることもあり、入居者にとっても刺激になつてゐるようです。今後は、グループホームの行事などに町会の人にも来てもらえるようにしていきた」と話し、災害時の協定が施設と地域との交流を促進するきっかけとなつた様子がうかがえました。

羽曳野市民児協では災害時の取り組みマニュアルを作成し、「民生委員・児童委員第一義的責任」を展開していますが、羽曳野市民児協の羽原会長は「今後、市内でもこうした取り組みを行う地域を増やし、社会福祉施設の力も借りながら、民生委員・児童委員がネットワークの中で把握した要援護者への支援の充実につなげたい」と話します。



桜の下で話がはずみます。



民生委員・児童委員さん

●貝塚市民生委員・児童委員協議会●

—課題を抱える親子を支えるために—



事例をもとに
率直に意見を交換

箋に書きとめ、貼り出していくよう
ちに、次々と意見が出てくるよう
になりました。

5月15日、貝塚市民児協では市内の民生委員・児童委員80名が参加し、「課題を抱える親子を支えるために」と題した研修会が行われました。この研修会は、平成18年度から行われており、今回で6回目を数えます。

研修会では「課題を抱える親子」への理解とともに、こうした親子を支援する際に民生委員・児童委員に求められる姿勢についての講義が行われた後、新任民生委員・児童委員を中心に8人ずつのグループをつくり、事例検討が行われました。

事例検討では、主任児童委員や児童委員が地域で実際に支援をしたケースをもとに、グループごとに異なる事例についての検討を行うとともに、主任児童委員や経験の豊富な児童委員2~3人が世話人チームをつくり、各グループでの検討が円滑に進むよう必要に応じて助言や進行の補助にあたりました。

当初は口数の少ないグループも、事例について思いついたことを付

いて相談してもよいものか」「近所の人からさりげなく話が聞けないといけないと思う」…それぞれの事例に沿って、自分の意見を率直に発言し合いながら、検討を深めました。



グループ」として
検討結果を報告

検討後は、それぞれが書き出した付箋を項目ごとに整理し、グループ内の意見をまとめたうえで、グループごとに相談者役、民生委員役、検討時にとくに注意した点を述べる役の3人を選び、検討結果を報告。「1回話を聞くだけでなく、時間をかけて相



思い思いに付箋に意見を書き出します。



付箋がびっしり並びます



主任児童委員が必要に応じてアドバイス



報告にも気持ちがこもります

「談者と接するようにする」「1人で動くのではなく、主任児童委員や学校等の関係機関と一緒に複数で対応するようにする」など様々な意見が出ました。グループの報告後、それぞれのグループの世話人チームを代表し、主任児童委員が「子どもに危険が及ばないかを見極める」とも必要」「相談に来た人を励まし、「もう少し話がしたい」と聞いてもらえない」と思ってもらえた。

研修会が民生委員・児童委員の支え合いの場に

最後に「民生委員・児童委員として地域の人が相談に来てくれる」とはありがたいこと。相談に来た人の話に耳をしっかりと傾けるとともに、あわてて解決しようとせず、身近な隣人として末永く付き合っていく」と大切」と山下主任児童委員がまとめ、参加者は熱心に聞き入っていました。

参加者からは「これまで自分が子どもを育てた経験から対応方法を考えていたが、民生委員・児童委員としての対応をもっと勉強しなければいけないと強なったが、相談を受けてもどうすればいいのか不安だった。今回の研修会は非常に心強かった」「課題を話し合う過程で、他校区の民生委員・児童委員と話ができる、自分一人で背負う必要がないと



報告を熱心に聞き入ります

るような雰囲気づくりが大切」などと述べ、検討をさらに深めました。

今自分が思っている、困っていることなどを地区や部会を越えて話し合える機会も必要」等の意見があり、今回の研修会が地域で活動する民生委員・児童委員とうしの支え合いの場となっていることがうかがえました。

「昨年12月の委嘱から約半年が経過して活動が本格化してきたこともあり、参加者からも今回のような事例検討の機会を増やしてほしいとの声があつた。今後も効果的な研修の実施などを通じ、民生委員・児童委員、主任児童委員の一人ひとりがますます職務について理解し、地域住民の期待に添えるような取り組みを進めていきたい」と貝塚市民生委員・児童委員協議会の多賀信正会長は話します。



[民児協だより]

摂 津 市

絵本の読み聞かせで 楽しい朝の時間

摂津市民児協第五中学校
地区では、校区内の小学校1、
2年生のクラスで、授業が始ま
る前の10分間「絵本の読み聞
かせ」を行っています。

絵本の読み聞かせを開始して
から1年半になる今年3月、児
童全員から絵本を読み終えた民
生委員・児童委員に手紙や折り
紙のプレゼントがありました。お
礼の言葉や読んだ絵本の感想が
書かれており、たった月2回とい
う短い時間ながらも、子どもたち
と心がふれ合っていることを実感
したうれしい瞬間でした。

また、絵本選びや読み方の研
修では、「トコヒヤゲームなど、遊
びも飽食の時代になつた現在では、
絵本の読み聞かせが優れた文化
の継承を担う重要な仕事」と学
びました。担任の先生と話し
合う機会を持ち、クラスの様子を
伺いながら、絵本選びを進めてい
ます。今後、この活動が地域に広がっ

熟心に絵本の
話に聞き入る
子どもたち



て「いくように育てていきたい」とい
うのがメンバーの願いです。「あー、
読み聞かせのおばちゃんー」と、地
域の子どもたちから声をかけられ、
日々の活動の大きな力になつてい
ます。



民生委員への感謝の手紙



摂津市民児協・第五中学校地区
地区委員長 山手 千榮子

四條畷市

子どもたちが参加した地域防災訓練

子ども達の
防災意識も
高まりました



今日、地域における自主防災への意識が高まっています。私たち四條畷市東中野地区においても平成18年4月、東中野地区自主防災委員会を立ち上げました。一方、市民生委員児童委員協議会においても、災害時における高齢者や子ども、障がい者等要援護者への取り組みが重点課題となつております。地域の自主防災組織との連携が求められています。

これらの背景を踏まえ、平

成20年2月17日(日)、四條畷小学校体育館において小学生の参加・訓練を中心とした「簡易型図上訓練」「地震の脅威に関する講演」「炊出し訓練」による防災訓練を四條畷市交通防災課、大阪府危機管理室の協力を得て実施しました。

訓練は、子どもたちも参加しやすい簡易型図上訓練を中心に行い、子どもたちを主体、親をアドバイザー役として、親子10人でグループを構成しま

した。グループごとに透明のビニールを被せた地図上に、指導者が説明する災害や防災に関する情報を油性ペンで書き込み、防災マップを作成。その過程で、グループ内でさまざまな議論を交わし、日頃気がつかなかつた防災対策が明らかになりました。こうした取り組みを通じて、参加した親子が防災に関する様々な知識を身につけ、防災意識の向上を図ることができました。

今回の訓練には、小学生65名をはじめ、保護者37名、その他39名、合計141名が参加。北河内ケーブルテレビが取材に訪れ、活動を地域に放映するなど、一定の成果を見ることができました。



四條畷市民児協・東中野地区
民生委員・児童委員 山田 稔

千早赤阪村

青少年健全育成を目的とした講演会を開催



小・中学校PTAとの交流風景



私たち千早赤阪村では毎年、青少年健全育成を目的に講師の先生をお招きし、講演会を行っています。今年はマスコミで話題の「悲鳴をあげる学校」の著者、小野田先生に講演をお願いしました。主任児童委員である私は、民生委員・児童委員と一緒に講演に参加させていただきました。

小野田先生の講演の冒頭に「保護者と先生は敵なのでしょうか

？」という言葉がありました。私はまだ子育て途中の母親ですが、進学する過程で学校との結びつきを振り返つてみると、幼・小の時期が一番大変でした。まさしくこの時期、「先生は敵だ」と思つたこともあります。

たしかに立派な先生にも出会い、親として勉強にもなりましたが、過剰に身構え、「閉鎖的で、聞く耳を持つてくれない学校だ」と感じたこともあります。親である私もそう思い始めるところ襟を開けず、ますます学校とは良い關係を結べず孤立していた時期もあります。

しかし講演を聞いていて、担任や校長先生に対しても立ちちや不満があつたとしても、攻撃的な態度をとることや否定的に評価することはやめようと思いました。決

す」とばかりが教育再生への第一歩ではないと理解できたからです。みんなの学校を良くするためには、作り変えていく努力やプロ

セスが重要であると思います。地域社会を形成する上で、学校で学び、成長することが最も大切なことです。

保護者が自分たちは何ができるのかを考え、先生とじかに向き合って「イチャモン」でも「苦情」でもない、本当は学校に「こうしてもらいたいのか」という本音を先生と語り合えるような関係づくりが理想だと思います。

「先生、こうじう風な学校でした」ともありました。

たしかに立派な先生にも出会い、親として勉強にもなりましたが、過剰に身構え、「閉鎖的で、聞く耳を持つてくれない学校だ」と感じたこともあります。親である私もそう思い始めるところ襟を開けず、ますます学校とは良い關係を結べず孤立していた時期もあります」といった両者の関係についてつながる会話ができるようになれば、学校を通して人と人は結びつき、より良い学校環境がもたらされるのではないかと思います。

これから母親として、主任児童委員として、「」の講演で学んだことを活動に生かしていくたいと思います。

千早赤阪村民児協
主任児童委員 右下 由紀子

岸和田市

岸和田学園と児童部会 (岸和田市民生委員・児童委員)

子ども達と市民
フェスティバル
へお出かけ



岸和田市民生委員児童委員協議会の活動のうち、児童部会と主任児童委員の活動を一部紹介します。年間を通じて児童部会員は忙しく、部会研修をはじめ、各地区の活動(小地域ネットワーク)も含めた民生委員・児童委員としての仕事と、1ヶ月の半数はボランティア活動に励んでいます。

その中でも部会活動である岸和田学園での奉仕活動には特に力を入れています。市民フェスティバルへの学園児の引率買い物教室をはじめ、施設見学への引率、学園児の名札及び体操服のゼッケン付け、雑巾縫いなどをelfており、学園夕涼み会は中でも一番大きな活動です。

この学園夕涼み会では児童部会だけでなく、民児協役員や地区委員長、主任児童委員、地元民生委員・児童委員などが協力し、水中一田玉、空中くきや活動です。

この学園夕涼み会では児童部会だけでなく、民児協役員や地区委員長、主任児童委員、地元民生委員・児童委員など音頭が始まり、踊りが終わります。また来るからねと子どもで言つて学園を後にし、自分の手伝いがこれで良かったのかと、考えながら帰途につきました。

岸和田市民児協

会長 岩佐 博



楽しいお祭り。屋台も
たくさん出ています。



みんなで楽しい思い出をつくります

児童養護施設の現場から 見えてくるもの

その6

6月に入り新しい年度を迎えて2か月あまりが過ぎ、通学園でも年度替わりの慌しさから少し落ち着きを取り戻してきましたように思われます。年度末に20数名の子どもたちを就労自立、家庭引取りなど社会に送り出し、それと同時に新しく入所する子どもたちを迎え、また職員も退職する者、新たに着任する者がおり、子どもたちの中でこれまであつた人間関係が大きく変わってしまいます。

学校や職場をはじめ、誰にどうても少なからずあることであり、当たり前のことだと思われるかもしませんが、子どもたちにとって施設は生活の場です。一般的な家庭で考えれば生活の場の人間関係が毎年毎年変わることはそうはありません。そういう意味で、職員の交代は子どもたちにとって大きな変化であり、その負担はとても大きいものです。特に、担当の職員が退職したり人事異動で変わることは子どもにとっては一大事です。これまで培つてきた愛着の関係や信頼の関係をまた一から作り上げていかなければならないからです。

年度替わりの時期、子どもたちは大変緊張し、大きなストレスを感じます。これは、言い換えれば集団生活である施設の一番のしんどさ

です。施設にやつてくる子どもたちは、それまでも人間関係でつらい思いをしてきた場合が多く、施設に来てからも集団であつたり、入れ替わりが激しい生活環境におかれ、なかなか心が休まる時がないのが現状です。

さて、先日24歳のある女性が通学園を訪ねてきました。その女性は2歳のときに通学園から里親に委託され、施設を退所した子でした。当時駆け出しの指導員であった私は、その子の名前を担当でもなかつたにもかかわらず鮮明に覚えており、20年ぶりに対面させていただきました。話を聞くと、自分の母親のことを知りたくて岡山からやつてきた、最初は施設を見て帰るつもりだったがいてもたつてもおれなくなり、つい玄関で声をかけてしまったとのことでした。

自分のルーツを探り求めて岡山からはるばるやつてきた彼女の思いと、彼女の過ごしてきた二十年余年の人生を思うと彼女のことが大変愛おしく思えました。同時に、自分のルーツを知りたくなるほど、自分自身の根幹を揺り動かし、突き動かすような大変な何が彼女に起つたのだろうかという懸念が私の心中に錯綜しました。こうした思いから、彼女の現状や里親さんとの関

係など、よくわからない中で話すことに戸惑いがありました。

次号にかけて、このことを振り返りながらいろいろと考え方をさせられることについて書かせていただきます。

社会福祉法人 大阪水上陵保館
児童養護施設 通学園・施設長

阪野 学



みんなで楽しいクリスマス



試合を前に気合いを入れて

主任児童委員の動き

6月4日、主任児童委員制度創設15年を記念し、クレオ大阪にて、講演会「地域における主任児童委員活動の今・これまで・これから」が開催され、民児協会長、地区委員長、児童委員、主任児童委員等551名が参加しました。

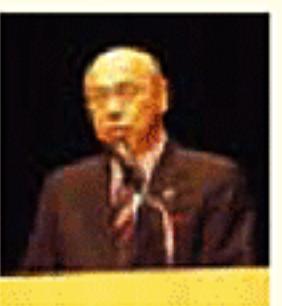
活動報告では、貝塚市の主任児童委員の梅原直子さんが小学校等の関係機関との連携による、不登校の傾向のある子どもや家庭への個別支援について報告。「活動を重ね、関係機関から理解が得られるようになった。主任児童委員としてできる」とは限られていますが、色々な人と力を合わせ、できることが増えた」とチームで取り組む重要性を述べました。

また、大阪府社協保育部会・副部会長の熊井茂治さんが保育所における地域貢献生活サポート事業について紹介し、地域の活性化を図るために、民生委員・児童委員と民間社会福祉法人との一層の連携を呼びかけました。

基調講演では、東京都民児連会長・全民児連副会長の川尻禮郎さんが、主任児童委員制度創設時の状況や平成16年の児童福祉法改正にともなう児童委員、主任児童委員の活動内容について触れ、「複数の福祉問題が混在する世帯に、民生委員でもある児童委員、主任児童委員が関係機関と協力しながら関わっていくことが重要」と語りました。また、主任児童委員と児童委員の連携について、民児協会長や地区委員長による配慮が重要との話があり、今後民児協全体で子育て支援活動にさらに取り組んでいくためのきっかけとすることができました。



東京都民児連会長
全民児連副会長
川尻 禮郎氏



大阪府社会福祉協議会
保育部会 副部会長
熊井 茂治氏



貝塚市主任児童委員
梅原 直子氏

事務局だより

「大阪府民生委員(方面委員)制度創設90周年記念
大阪府民生委員・児童委員活動10年小史」
発行のお知らせ

大阪府民生委員児童委員協議会連合会では、民生委員(方面委員)制度創設90周年を記念し、平成10年に発行した「大阪府民生委員児童委員活動平成十年小史」以降の10年間の活動のあゆみをまとめた記念誌を発行し、府内(高槻市は別途90周年記念事業を実施のため含まず)の民生委員・児童委員の皆様へ配付いたします。7月中旬頃に市町村民児協事務局にお届けする予定です。

〒520-8577 滋賀県子ども・青少年局

児童虐待防止標語募集担当あて

平成20年度「児童虐待防止推進月間」標語の募集について

厚生労働省では、社会全体で早急に解決すべき課題である児童虐待問題についての社会的関心の喚起を図るため、平成16年度より毎年11月を「児童虐待防止推進月間」と定めて集中的な広報啓発活動を行っており、その一環として平成20年度も標語を公募することになりました。応募される方は、郵便番号、住所、氏名、電話番号、年齢、職業を記入のうえ、平成20年7月11日(金)までに(当日消印有効)下記宛先まで郵送ください。なお、応募は1人1作品に限られます。

表紙の作品と作者

[枚方市] (福)徳風会 とくふうホーム のみなさん

思わず手に取って食べたくなる、おいしそうなタルトケーキ。実は、枚方市にある社会福祉法人徳風会・とくふうホームが製作しているキャンドルです。

とくふうホームは、大規模な知的障害者通所授産施設で、キャンドルやさをり織りなどの製作・販売、パンやクッキーの製造・販売、企業への就労移行支援などを行っています。

キャンドルを製作しているのは、3名の利用者とキャンドル担当の指導員である豊福さん。キャンドルの製作は5年ほど前から取り組んでいましたが、食品サンプルのキャンドルがアメリカで流行していると聞き、平成19年からベリータルトキャンドルなど「お菓子なキャンドルシリーズ」の製作を始めたそうです。



タルト部分にクリームやブルーベリーのロウを丁寧に重ねていく下谷さん。



キャンドルのデザインは、職員や知り合いの作家が担当。一方、材料となるロウを削って溶かす、クレヨンによる彩色、型抜きや粘土細工のようにこねてタルト部分やイチゴなどを形づくる、ラッピング、といった実作業の大部分は利用者が行います。利用者の下谷孝則さんは「ブルーベリーのタルトキャンドルが一番難しい。でもやっていて楽しい」と話します。ベリータルトキャンドルは、平成19年度大阪府授産製品コンペティションで大阪府社会福祉協議会会長賞を受賞しており、下谷さんにとっても受賞が大きな励みになったようです。

キャンドルは施設や地域のバザーなどのほか、近隣の喫茶店や美容室で販売されています。さらに通販会社との共同作業でキャンドルの製造も行うなど、販路の開拓にも積極的に取り組んでいます。今後は「クリスマスケーキのキャンドルをつくりたい」と話す下谷さん。これからも魅力的なキャンドルが作られていくことでしょう。

編集後記

大正7(1908)年に、方面委員制度が林市蔵・第16代大阪府知事と、知事顧問であった小河滋次郎博士の考案により創設され、90年を迎えました。大阪府民生委員(方面委員)制度創設90周年記念事業を通じ、社会情勢の変化にともない、常に地域住民の生活課題に直面してきた民生委員・児童委員活動の重要性を改めて見直すことができました。

つい先日までは輝くようだった木々の緑が深みを増すようになりました。猛暑はすぐそこ。ご自愛ください。

Well おおさか
vol.19
(通巻53号)

発行日:平成20年7月

発行:大阪府民生委員児童委員協議会連合会

事務局:大阪市中央区中寺1-1-54 大阪府社会福祉協議会内

TEL.06-6762-9486 FAX.06-6762-9487



この冊子は再生紙を使用しています。